

<資料②>

「話す・聴く」を子どもと創る



子どもと教師で、「話す・聴く」について大事にしたいことを共有し、各クラスで大切にしましょう。

「聴く」については、いろいろな学級で左のような掲示物がありました。自分たちのものとして、根付くことがねらいで、「させられる」のではなく「自分たちが大事にしたいもの」にするほうが、子どもの力は伸びていくと考えるからです。

各学年の実態に応じて、教師の支援が必要かとおもいます。低学年は、教師のほうからの提示でかまいません。みんなで大事にしていく意欲付けをお願いします。

「どんな風に聞いてくれるとうれしいかな？」など投げかけも工夫のしどころです。また、子どもから出てこないもの、教師が身につけさせたいものもその中に「先生の意見」として入れていくのも良いですし、学校生活を送っていく中で付け足していくのも良いです。